買物困難者支援実証事業
ＩＣＴ利活用促進調査研究

佐賀大学　経済学部
羽石　寛志

唐津市における調査

- 十人町　人口218人
  - 高齢者（男性26人　女性50人）
- 元石町　人口841人
  - 高齢者（男性73人　女性149人）

- 高齢者独居、高齢者夫婦で施設を利用していない人
  - 十人町37軒、元石町36軒の計73軒
  - 戸別訪問調査

現在の買物状況

- どちらの町の調査対象者の特徴
  - 自分で買物に出かけ、徒歩で移動している。
  - 買物に行く頻度は週1～2日であり、1度の買物でまとめて購入している。
  - スーパーまで徒歩で5～15分、現在買物に困っているという人は少ない

  - 一方で、今後足が悪くなったり、体調を崩す事で買物にいつ行けなくなるか分からないといった今後の買物に不安を感じている。

ICTリテラシー

- 54.7%が普段ICT機器に触れる機会がある
- インターネットを利用している人は少なく、ICT機器を利用した買物に興味も少ない。
- 本事業で利用するまいづるネットスーパーの認知度は十人町では19.4%、元石町では58.3%と2つの町で差が見られた。

考察

- 本事業の定期的な利用可能性
  - 距離的な問題で元石町の中でもセカンドハウス近隣の住民が中心と考えられる。
  - 買い物ということだけでの集客は困難。

  - 鮮度などの確認のため自分の目で見て買いたいという要望があり、ネットスーパーでの買い物に対する抵抗感とICTへの抵抗を払拭する事とが重要である。